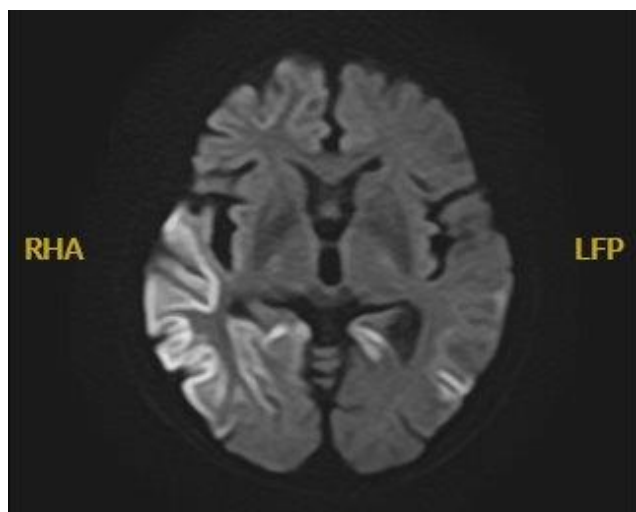


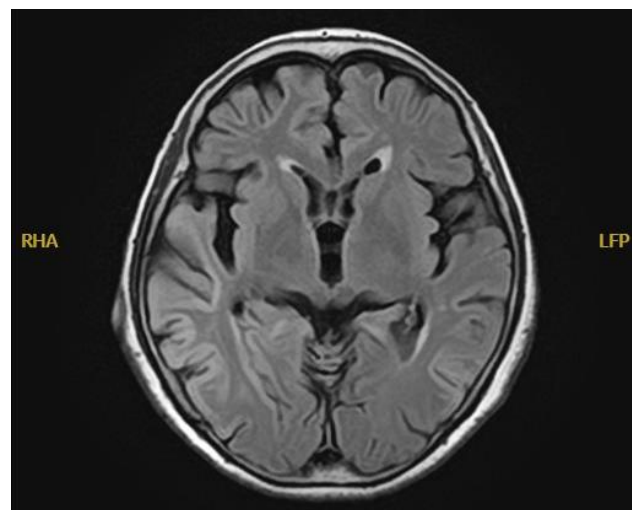
## 弧発性と遺伝性CJDにおける遺伝子サブタイプによる画像の特徴の検討

研究分担者：徳島大学医歯薬学研究部 原田雅史

### V180I遺伝性CJD症例



DWI



FLAIR

V180Iの変異による遺伝性CJDのMRI所見の特徴

- ・DWIで大脳皮質の高信号を認めることが多いが、皮質の浮腫性変化を伴うことが多い。
- ・大脳皮質の異常信号は当初は両側後頭葉の皮質は免れることが多い。
- ・大脳皮質の異常は、DWIでの高信号よりFLAIR像やT2強調像でより目立つことが多い。

### 解説

1. V180I遺伝性CJDは、MRI所見によって早期に鑑別できる可能性がある。
2. 昨年の検討から、E200Kは弧発性に比し、頭頂葉、後頭葉、帯状回における拡散制限の頻度が低かった。
3. 弧発性CJDにおけるtype1, tupe2病理の共存に関し、後方視的に画像所見との対応を評価することが可能。
4. MRI所見によって、弧発性CJD、遺伝性プリオン病の病型推計に寄与できることが示唆された。